

大項目	中項目	スキル標準	キーワード
① FDE概論	FDEとは	FDE(フォワード・デプロイド・エンジニア)の定義と役割、コンサルタントとの違いを理解する	フォワード・デプロイド・エンジニア、前線配備エンジニア、顧客内製化、デモと本番のギャップ、作る人としての関与、現場常駐、コンサルとの違い
	FDEの人材像・キャリア	FDEに求められる複合スキル(4つの顔)とキャリア・年収相場を理解する	コンサルの脳、データサイエンティストの眼、エンジニアの手、PMの心、顧客折衝、年収相場、プロダクト還流
	FDEの価値構造(暗黙知の教科書化)	暗黙知の形式知化と次世代AIへの知識移譲＝『仕事をAIの教科書にする』という価値構造を理解する	暗黙知、形式知化、組織の地層、業務の勘所、AIの教科書、ナレッジ移譲、次世代AIエージェント
	デモと本番のギャップ	なぜデモでは動くAIが本番で動かないのか、その構造的要因を理解する	デモと本番のギャップ、本番適用、組織の地層、例外対応、現実データ、レガシー連携、PoC止まり
	AI導入目的と経営課題の接続	AI導入を手段の目的化に陥らせず、経営課題・業務課題の解決という導入目的とゴール(KGI/KPI)から捉える視点を持つ	導入目的の明確化、経営課題との接続、KGI/KPI、費用対効果、手段の目的化防止、ゴール設定、期待効果
② AI・LLM基礎理解	LLMの基本特性	LLMの仕組み・得意不得意・限界(ハルシネーション等)を理解する	大規模言語モデル、生成AI、トークン、ハルシネーション、コンテキストウィンドウ、マルチモーダル、確率的生成
	AIの能力進化とエージェント化	近年のAI進化と推論モデル・エージェント化の潮流を理解する	ディープラーニング、Transformer、基盤モデル、推論モデル、スケールリング則、エージェント化、シンギュラリティ
	AIサービス・プラットフォームの種類と使い分け	主要なAIサービス(ChatGPT・Claude・Gemini・Copilot等)の種類・特徴・用途別の使い分けを理解し、業務課題に対する適切なAIツールを選定できる	ChatGPT、Claude、Gemini、Copilot、LLM比較、モデル選定、用途別AI、生成AIサービス、プラットフォーム別特徴、API提供モデル
	プロンプトの基礎認識	生成AIに対して目的に応じた指示(プロンプト)を設計する基礎的な考え方を理解する	プロンプト、指示設計、ゴール明示、役割指定、出力形式指定、コンテキスト提供、基礎プロンプト、プロンプトエンジニアリング
③ 業務・ドメイン理解	業務プロセス分解	業務をフロー・スイムレーンで可視化・分解できる	業務フロー、スイムレーン、As-Is/To-Be、プロセスマッピング、業務分解
	ヒアリングをして課題構造化	課題を構造的に把握できる(因果・なぜなぜ・ボトルネック特定)	Why-Why分析、因果関係、ロジックツリー、課題構造化、ボトルネック特定
	業界ごとの違い業界ドメインの仕事のやり方理解	金融・医療・保険など業界ごとの業務の進め方・規制・判断慣行を理解する視点を持つ	業務慣行、規制業種、審査フロー、確認フロー、業界知識、ドメイン理解
	暗黙知・例外対応の発見	文書化されていない業務知識・例外対応・属人化された判断を捉える視点を持つ	暗黙知、例外対応、ベテランの勘、非公式手順、属人化、組織の地層、形式知/暗黙知(SECI)
④ コミュニケーション・整理力	構造化ヒアリング・インタビュー技法	目的・仮説を持ってヒアリングを設計し、相手から必要な情報を引き出す構造化インタビューができる	構造化インタビュー、ヒアリング設計、質問設計、オープンクローズド質問、ラポール形成、信頼関係構築、傾聴
	業務棚卸し・業務マニュアル作成	現場の業務を漏れなく棚卸しし、業務フロー・業務マニュアルとして可視化・文書化できる	業務棚卸し、業務フロー作成、業務マニュアル、業務一覧表、作業手順書、As-Is可視化、ドキュメント化
	要点整理	ヒアリング・分析結果を構造化	要点整理、ロジカルシンキング・MECE・ピラミッドストラクチャー、情報構造化、要点抽出、構造化思考など
	ドキュメンテーション力	関係者が理解できる報告書・議事録・提案資料としてまとめ上げる力を持つ	ドキュメンテーション、議事録作成、報告書、提案資料、ロジカルライティング、情報構造化
⑤ 変革マインド	マインドセット	固定観念と成長思考(Growth Mindset)の違いを理解し、変化を前向きに捉え、継続的な学習とリスクリングの重要性を理解する	Growth Mindset、成長思考、学習敏捷性、リスクリング、アンラーニング、自己変革
	マインドシフト	従来業務前提からAI前提へ思考転換し、部分最適から全体最適、問題解決から価値創造へ視点を転換する考え方を理解する	AIファースト、全体最適、価値創造、ゼロベース思考、業務再定義、業務変革
	マインドチェンジ	変革に対する抵抗が生じる要因を理解し、小さく試しながら改善を繰り返す行動変容の考え方を理解する	行動変容、アジャイル、スモールスタート、PDCA、改善文化、挑戦
	マインドトランスフォーメーション	自らの価値観や行動様式を変革し、生成AI時代に適應するための継続的な自己変革の必要性を理解する	MX、自己変革、価値観変革、変革推進、生成AI時代、未来志向
	DXの本質理解	デジタル化、IT化、DXの違いを理解し、DXが価値創造を目的とする変革活動であることを理解する	DX、デジタル化、IT化、価値創造、変革
	顧客価値思考	業務効率化だけでなく顧客価値向上を起点に考える重要性を理解する	顧客価値、ユーザー視点、価値提供、顧客体験、CX
	社会変化への適應	Society5.0や生成AI時代の社会変化を理解し、変化に適應する必要性を理解する	Society5.0、生成AI、VUCA、変化対応、未来社会
⑥ 教育・指導力	説明力	専門用語や複雑な内容を相手の理解度に応じてわかりやすく説明できる考え方を理解する	わかりやすい説明、言語化、翻訳力、伝達力、プレゼンテーション
	質問力・傾聴力	相手の課題や考えを引き出す質問と傾聴の重要性を理解する	オープンクエスチョン、傾聴、ラポール形成、対話、ヒアリング
	コーチング基礎	相手に答えを教えるのではなく、自ら考え行動することを支援する考え方を理解する	コーチング、伴走支援、自律支援、成長支援、内省
	ファシリテーション基礎	会議や対話の場において参加者の意見を引き出し、合意形成を支援する役割を理解する	ファシリテーション、合意形成、対話促進、参加型、ワークショップ
	人材育成の基礎	現場における人材育成の重要性とOJTによる学習支援の考え方を理解する	OJT、人材育成、知識継承、スキル移転、育成計画
	ナレッジ共有	個人の知識や経験を組織全体へ共有し活用する重要性を理解する	ナレッジマネジメント、知識共有、形式知化、ベストプラクティス
	学習する組織	個人だけでなく組織全体が学び続ける仕組みの重要性を理解する	ラーニングオーガニゼーション、組織学習、継続改善、学習文化
⑦ AI前提思考	AI適用ポイントの発見	業務のどこにAIを適用すべきか(自動化／補助／意思決定支援)判断できる	AI適用パターン、自動化、補助、意思決定支援、適用可否判断
	人×AIの役割分担	人とAIの役割分担とヒューマンインザループ、手放さない判断を設計する視点を持つ	ヒューマンインザループ、役割分担、判断の委譲範囲、人が手放さない判断
	エージェント前提の業務再設計思考	「AIを使う」ではなく「AIエージェントを前提に業務プロセス自体を再設計する」思考法を理解する	業務再設計、DESIGNフェーズ、AI前提思考、プロセス再構築、エージェント前提、業務変革設計
⑧ 基礎データ理解	データの種類と流れ	構造化／非構造化データと基本データフロー(入力→処理→出力)を理解する	構造化データ、非構造化データ、データフロー、入力→処理→出力、メタデータ
	業務システムとデータ連携の基本	業務システム間のデータ連携の基本概念とサイロ化を理解する	基幹システム、SaaS、API、データ連携、サイロ化、データ統合
⑨ AIエージェント基礎	AIエージェントの概念	AIエージェントの概念(ワークフロー型／自律型)を理解する	AIエージェント、ワークフロー型、自律型、タスク自動連携、ツール利用、自律実行
	エージェントが変える業務	エージェントがホワイトカラー業務(承認・調整・審査)に与える影響を理解する	承認フロー、調整業務、審査判断、ホワイトカラー自動化、業務代替
	フィジカルAI、ブルーカラーへの対応	フィジカルAI・ロボティクスの潮流と、製造・物流・現場作業などブルーカラー業務へのAI適用の広がりを理解する	フィジカルAI、ロボティクス、ヒューマノイドロボット、自律搬送、製造・物流現場、現場作業支援、ブルーカラー業務へのAI適用
⑩ 倫理・セキュリティ基礎	顧客内に入る際の基本姿勢	顧客組織に入るFDEの倫理・守秘・信頼構築の基本を理解する	守秘義務、情報管理、信頼構築、顧客データの取り扱い、利益相反
	AIリスクの基礎	AI活用に伴う基本リスク(情報漏洩・ハルシネーション・バイアス)を理解する	情報漏洩、ハルシネーション、バイアス、プライバシー、AIガバナンス基礎
	AI関連法規制の動向	EU AI Act・国内AI関連法規・個人情報保護法改正など、AI活用に関わる主要な法規制の動向と基本的な規制の考え方を理解する	EU AI Act、リスク分類、高リスクAI、禁止AI、AI透明性、説明責任、個人情報保護法、国内AI規制動向、AIガバナンス